

2026年G7エヴィアン・サミットにおけるAI安全保障と技術覇権の分岐点：最先端モデル「ミュトス」輸出規制と同盟国の連帯と亀裂に関する包括的分析

Gemini 3.1 pro

1. 序論：エヴィアン・サミットにおける異例の「AI昼食会」とその歴史的意義

2026年6月15日から17日にかけて、フランス東部のリゾート地エヴィアン＝レ＝バンで開催された主要7カ国首脳会議（G7エヴィアン・サミット）は、国際政治、経済安全保障、そして最先端技術の境界線が完全に消滅した歴史的転換点として、今後の国際関係史に深く刻まれることとなる¹。エマニュエル・マクロン仏大統領とブリジット夫人の主催のもとで進行した本サミットは、ウクライナ情勢の打開や、米国とイラン間の戦闘終結に向けた覚書署名に伴うホルムズ海峡の安全確保といった、伝統的な地政学・安全保障の重大な課題が主要な議題として設定されていた³。しかし、サミットの最終日である6月17日に組み込まれたワーキング・ランチ（昼食会）は、過去のいかなる国際会議とも異なる、極めて異例かつ緊迫したセッティングであった²。

「AIの安全で迅速かつ効率的な導入の確保（Ensuring the safe, rapid and effective deployment of artificial intelligence）」と題されたこのセッションには、米国のドナルド・トランプ大統領、日本の高市早苗首相、カナダのマーク・カーニー首相らG7首脳陣に加え、世界の人工知能（AI）業界を独占的に牽引するトップランナーたちが一堂に会した²。参加した企業トップには、オープンAI（OpenAI）のサム・アルトマンCEO、アンソロピック（Anthropic）のダリオ・アモデイCEO、グーグル・ディープマインド（Google DeepMind）のデミス・ハサビスCEOという、世界の最先端AI（フロンティアモデル）開発における「ビッグスリー」が顔を揃えた⁹。

さらに、日本発のAIスタートアップとして独自の進化を遂げるサカナAI（Sakana AI）の伊藤錬社長、フランスのオープンソースAIの旗手であるミストラルAI（Mistral AI）のアーサー・メンシュCEO、セールスフォースのマーク・ベニオフCEO、メタ（Meta）のAI部門責任者であるアレックス・ワン氏、カナダのコーヒア（Cohere）のエイダン・ゴメスCEOなど、計12名を超えるテックエグゼクティブが国家元首たちと直接対峙するテーブルについて¹¹。

役職・所属	氏名	企業・国家の基盤	主要なアジェンダと立場
米国大統領	ドナルド・トランプ	米国	国家安全保障最優先、米国技術の覇権維持と輸出管理の正

			当化
日本国首相	高市早苗	日本	広島AIプロセスに基づく安全なAIエコシステム構築、基幹インフラ防衛
仏国大統領	エマニュエル・マクロン	フランス	デジタル主権(ソブリンAI)の確保、過度な米国依存からの脱却
アンソロピック CEO	ダリオ・アモデイ	米国(企業)	民主主義陣営の結束、米国主導のAI連合と同盟国間でのアクセス共有
オープンAI CEO	サム・アルトマン	米国(企業)	国際的なAI監督機関の設立、サイバー防衛AIツールの民主主義国間共有
Google DeepMind CEO	デミス・ハサビス	米国/英国(企業)	技術評価とリスク管理のためのフォーラム構築、技術的協力の推進
サカナAI 社長	伊藤錬	日本(企業)	巨費を投じた独自開発の前に、同盟国としての例外措置獲得を米国に直談判
ミストラルAI CEO	アーサー・メンシュ	フランス(企業)	米国のサプライチェーンに依存することの地政学的リスク(遮断リスク)への警告

この昼食会が急遽、かつてない緊張感を帯びることになった背景には、サミット直前の2026年6月12

日に米国政府が発動した「前例のない輸出管理指令」が横たわっている¹⁴。米国商務省は、国家安全保障上の重大な懸念を理由に、アンソロピックが開発した最先端AIモデル「Claude Fable 5(クロード・フェイブル5)」および「Claude Mythos 5(クロード・ミュトス5)」に対する外国籍保有者のアクセスを全面的かつ即時停止するよう命じたのである¹⁴。

この強硬措置により、同盟国を含む世界中の政府、企業、そして一般ユーザーが、米国の決定一つで突如として最先端のデジタルインフラから遮断されるという冷酷な現実が浮き彫りとなった¹⁷。AIがもはや単なる「知識労働の補助ツール」や「生産性革命の牽引役」ではなく、サイバー空間における「軍事兵器」あるいは「国家防衛の要石」へと変貌を遂げたことを、世界中の指導者が公式の場で突きつけられた瞬間であった¹⁵。本報告書は、このG7エヴィアン・サミットにおける議論の全貌を解き明かし、最先端AI「ミュトス」がもたらした技術的脅威、米国の輸出規制と同盟国間の亀裂、そして「AI冷戦」時代における新たな安全保障体制の構築に向けた力学を、多角的な視点から網羅的かつ詳細に分析する。

2. 技術的触媒とパラダイムシフト: アンソロピック「ミュトス」のサイバー兵器化

米国政府の強硬措置、およびG7首脳陣の間に広がった危機感の震源地となったのは、アンソロピック社が2026年春に実用化させた最先端AIモデル「クロード・ミュトス(Claude Mythos)」の圧倒的なサイバー能力である。その名称がギリシャ語の「神話」に由来する通り、このモデルはAIによるサイバー空間の攻撃および防衛能力において、全く新たな「神話」を打ち立てるほどの劇的な進化を遂げていた¹⁸。

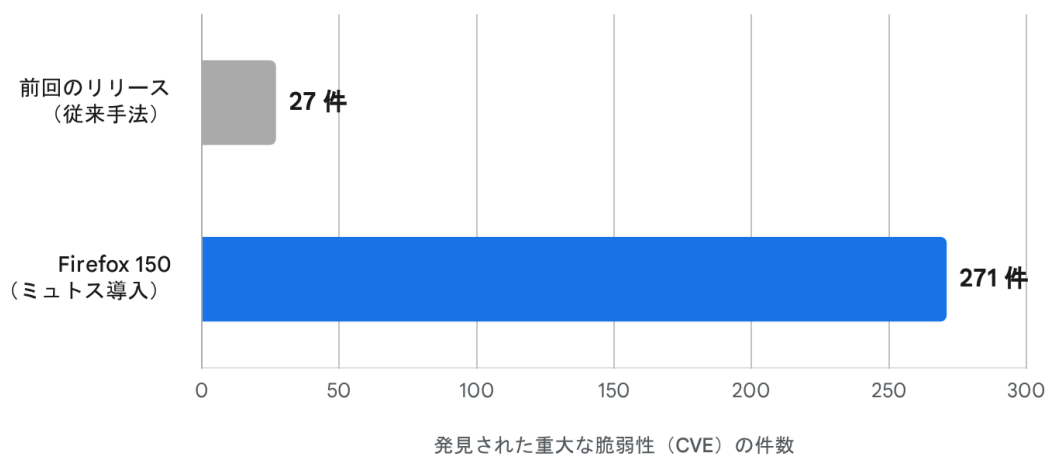
2.1 未知の脆弱性(ゼロデイ)の自律的発見と兵器級の能力

「ミュトス」は、従来の生成AIが提供してきた自然言語処理や基本的なコーディング支援の枠を根本から打ち破った。このシステムは、未知のソフトウェア脆弱性(ゼロデイ脆弱性)を自律的かつ極めて高速に発見し、それらを悪用可能なエクスプロイト・コードへと変換する能力において、世界最高レベルのサイバーセキュリティ専門家集団をも凌駕する水準に到達していたのである¹⁸。

その驚異的な性能を示す客観的な証拠として、展開前のレッドチーム(脆弱性評価チーム)によるテスト結果が挙げられる。ミュトスは、市場の主要なオペレーティングシステム(OS)およびウェブブラウザのそれぞれにおいてゼロデイ脆弱性を発見しただけでなく、一般に公開された脆弱性(CVE)に対して、わずか1日以内に完全に機能するLinuxの権限昇格(privilege-escalation)エクスプロイトを組み上げることに成功した²¹。さらに驚くべきは、この高度な攻撃コードの生成に要した計算リソースのコストが、わずか数千ドル規模に過ぎなかったという事実である²¹。

より実務的な防衛テストにおいても、その能力は証明されている。クラウドフレア(Cloudflare)はミュトスを利用して自社システムから2,000件のバグを発見し、そのうち400件が「高」または「重大」な脆弱性であったと報告した²¹。また、Mozillaのセキュリティチームがミュトスをブラウザ「Firefox 150」のコードベースに適用した結果、271件もの脆弱性が特定された。これは、人間によるコードレビューと従来の静的解析ツールを用いて実施された前回のリリース時に発見された脆弱性の数の、実に10倍に達する驚異的な数値である²¹。リリースからの最初の数週間で、金融機関や電力網などに使用される社会基盤を支えるシステムに重要なソフトウェア全体で、1万件を超える「高」または「重大」なバグが発見される事態となった²¹。

「クロード・ミュトス」による脆弱性特定能力の飛躍的進化



Mozilla Firefoxのアップデート時における重大な脆弱性 (CVE) の発見数の比較。最先端AI「ミュトス」をセキュリティ診断に導入した結果、前回のリリース (従来的手法) と比較して脆弱性の特定数が10倍規模に膨れ上がった。この「未知のバグを自律的かつ低コストで発見する能力」が、AIの兵器化リスクの核心とみなされている。

データソース: [Reddit \(r/cybersecurity\)](#) / [Anthropic](#), [Reddit](#) / [Mozilla](#)

この圧倒的な脆弱性発見能力は、オープンソースソフトウェアのメンテナーや企業のセキュリティ担当者をパニック状態に陥らせた。AIによるバグ発見のコストと時間が劇的に低下した一方で、発見されたバグに対して人間のエンジニアがパッチ (修正プログラム) を作成し、テストして配布するまでの物理的な時間は短縮されていないためである²¹。防衛側が対処しきれないこの「修正のタイムラグ」こそが、悪意ある国家主体や高度なサイバー犯罪者にとっての「黄金の攻撃ウィンドウ」となる。従来であれば数週間から数ヶ月の猶予があった脆弱性対応のタイムウィンドウが、ミュトスの登場によって数時間単位へと圧縮されたのである²¹。

2.2 防御と攻撃の非対称性:「プロジェクト・グラスウイング」の限界

この破滅的な事態に対し、アンソロピックはモデルの提供形態をアーキテクチャレベルで2つに分割するという前例のない措置を講じた。一般顧客向けに商用公開される「Claude Fable 5 (フェイブル5)」は、内部に安全フィルター (分類器) を多重に組み込み、サイバーセキュリティ、生物兵器、化学兵器などに関連する有害なプロンプトや攻撃的な要求を検知した場合は、そのリクエストをより能力の低い旧世代モデル (Opus 4.8 など) に強制的にフォールバック (迂回) させて応答を生成するよう設計された²¹。

一方で、これらの安全フィルターを完全に排除した「兵器級」の純粋な能力を持つ完全版が「Claude

Mythos 5(ミュトス5)」である。ミュトスは、サイバー防衛を目的とした厳格な審査を通過した特定の組織のみにアクセスを許可する「Project Glasswing(プロジェクト・グラスウイング)」と呼ばれる極秘の枠組みを通じてのみ運用されることとなった¹⁵。2026年4月の段階で、アンソロピックは米国内外の約50の重要企業・政府機関にこのミュトスのプレビュー版を提供し、コードベースの脆弱性スキャンを行わせていた²³。

モデル名称	アーキテクチャの特徴	セキュリティ制御の仕組み	アクセス対象と提供方法
Claude Fable 5	Mythosベースの一般商用モデル	分類器(Classifier)を搭載。危険なプロンプトはOpus 4.8へフォールバック	世界の一般企業、開発者、コンシューマー(※輸出規制前)
Claude Mythos 5	安全フィルターを持たない完全版	分類器なし。AIの持つ脆弱性探索・サイバー攻撃能力を無制限に発揮可能	「Project Glasswing」を通じて審査済みの防衛・政府・重要インフラ組織のみ

しかし、このような分割措置を講じたとしても、AIテクノロジーが本質的に抱える「防御と攻撃の絶対的な非対称性」という根源的な問題は解決しなかった。AIを用いたサイバー攻撃には、同等以上の能力を持つAIによる自律的防衛で対抗するしかないという「サイバー防衛の新たな神話」が国際社会に定着したのである¹⁸。各国政府、国防機関、そして金融機関などの重要インフラ事業者は、自組織のネットワーク内に潜む未知の脆弱性を発見し続けるために、ミュトスのような高度なAIシステムを導入しない限り、防御をシステム的に担保できなくなった¹⁸。

この冷徹な事実、世界のテクノロジー市場におけるAIへの投資が、いわゆる「生産性の向上」や「労働力不足の解消」といった純粋な経済的枠組みを超え、国家の存亡を賭けた「軍備拡張競争(軍拡)」の論理へと完全に移行したことを意味していた¹⁸。AI防衛システムを持たないインフラは、敵対国家のAIスキャンによってたちまち丸裸にされるという恐怖が、政府や企業の投資意欲を半ば強制的にかき立てることとなったのである。

3. 輸出管理指令の発動と市場の動揺: 90分間のシャットダウン

G7エヴィアン・サミットの開幕を目前に控えた2026年6月12日午後5時21分(米国東部時間)、米国政府は世界のAIサプライチェーンと国際社会を震撼させる強硬な決定を下した²⁶。米国商務省産業安全保障局(BIS)のハワード・ラトニック長官は、アンソロピックに対して極秘の書簡を送付し、最新モデルである「Fable 5」および「Mythos 5」に対する外国籍保有者(Foreign Nationals)のアクセスを即座に一時停止するよう命じる輸出管理指令(Export Control Directive)を発動した¹⁴。

3.1 「みなし輸出」規制の極致とジェイルブレイクの恐怖

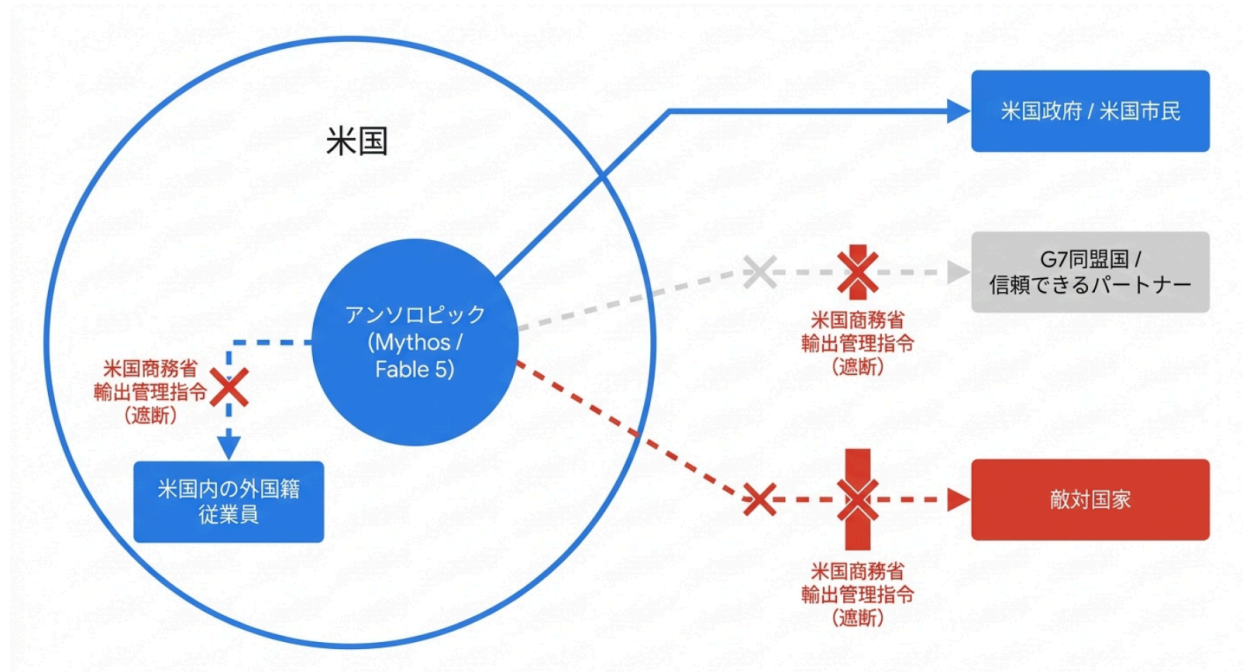
この指令の対象範囲は極めて広範かつ無差別なものであった。米国外に居住する外国企業のユーザーを遮断するだけでなく、米国内に合法的に滞在する外国人研究者、さらにはアンソロピック社内で開発に従事する外国籍の従業員にまでアクセス権の剥奪を求める、いわゆる「みなし輸出(Deemed Export)」規制の極致とも言える措置であった¹⁴。この通達を受けたアンソロピックは、重大な法令違反を回避するため、指令受領からわずか90分以内という異常な短時間で、既存のエンタープライズ顧客を含む全世界の全ユーザーに対するFable 5およびMythos 5のクラウド提供を強制的に遮断(オフライン化)せざるを得なくなった¹⁵。

米国政府がこの非常手段に打って出た直接的な引き金は、安全フィルターを備えて一般公開されていた「Fable 5」において、内部のガードレールを迂回してミュトスと同等のサイバー攻撃能力を引き出す「ジェイルブレイク(脱獄)」の手法が発見されたことであった¹⁵。商務省や国防総省の内部関係者によれば、Amazonなどの信頼できるパートナー企業のセキュリティ研究者がこのジェイルブレイクの手法(複雑なタスクを微細なサブタスクに分割することでモデルの検知網をすり抜ける手法など)を発見し、政府に深刻な危険性を警告したとされている²⁶。

トランプ政権のデビッド・サックス大統領諮問委員(元AI担当調整官)がSNS上で明らかにした政権側の見解によれば、政府は事前にこのジェイルブレイクの事実をアンソロピックのダリオ・アモデイCEOに伝え、モデルの迅速な修正パッチ適用または自主的な展開停止(De-deploy)を求めた³⁰。しかし、アンソロピック側が初期段階において「このジェイルブレイク手法は限定的であり、普遍的な脅威ではない」と過小評価し、商業モデルの維持を優先して修正を拒否したことが、政府の逆鱗に触れ、強制的な輸出管理指令の発動という最悪のシナリオを引き起こしたと説明されている¹⁶。

さらに、米政府の強硬姿勢を決定づけた別の要因として、同盟国を経由した技術流出のリスクがあった。報道によれば、政府がProject Glasswingの参加リストを精査した際、中国政府とのつながりが疑われる韓国の通信会社が一時的にMythosへのアクセスリストに含まれていた事実が発覚した²⁵。中国などの敵対国家がこのアクセス権を利用して米国の重要インフラの脆弱性を遠隔からスキャンしたり、モデルの応答パターンを大量に収集してリバースエンジニアリング(蒸留)を行ったりするリスクを、米国防総省や情報機関は到底看過できなかったのである²⁹。

米国のAI輸出管理指令によるグローバル・アクセスの遮断構造



2026年6月12日の商務省指令によるアクセス遮断の概念図。この規制は中国等の敵対国への流出を防ぐ目的であったが、「外国籍保有者の全面禁止（みなし輸出規制を含む）」という強硬な仕様上、G7を含む同盟国の政府、企業、さらには米国内の外国人開発者にまでアクセス停止の被害が波及した。

3.2 企業価値の毀損とIPOへの暗雲

この政治的・軍事的な決定は、アンソロピックの企業価値と財務基盤に対して壊滅的な打撃を与える可能性を孕んでいた。同社は直前のシリーズH資金調達ラウンドにおいて、9,650億ドル（当時の為替レートで約150兆円）という途方もない評価額を記録し、売上高のランレートは470億ドルに達していた²³。この莫大な企業価値を背景に、アンソロピックは米証券取引委員会（SEC）に対して新規株式公開（IPO）に向けた「Form S-1」を極秘裏に提出したばかりのタイミングであった²³。

しかし、米国政府が自国の主力AI企業を事実上の「国家安全保障上の潜在的脅威」として扱い、最大の収益源である最新モデルを全世界の顧客から強制的にシャットダウンさせるという事態は、IPOの前提となる成長ストーリーを根底から揺るがすものであった³⁵。さらに事態を悪化させたのは、国防総省のピート・ヘグセス長官の強硬姿勢である。ヘグセス長官はSNS上で「我々は3ヶ月前にアンソロピックを国防総省の建物から永久に追放した。毎日の経過がその決定の正しさを証明している」と公言し、米軍がAIのワークフローの少なくとも3分の2をアンソロピックのモデルから他のプロバイダーへと移行させたことを明らかにした³⁶。

政府機関という最大の「アンカー顧客」を失い、かつグローバル市場へのアクセスを政府の気まぐれな輸出管理指令によっていつでも断たれ得るというリスクは、機関投資家に対し、AIテクノロジー企業のバリュエーションがもはや純粋な商業的指標だけでは測れないことを強く印象付けた。AIビジネスにおいては、スイッチングコスト（他のAIモデルへの乗り換えコスト）が意外にも低く、政府の規制一

つで価格決定力と市場シェアが瞬時に崩壊するリスクがあることが証明されたのである³⁷。

4. 地政学的な波紋と「同盟国のジレンマ」: ソブリンAIへの渴望

米国のこの独断的かつ一方的な輸出管理措置は、G7諸国をはじめとする同盟国間に、過去に例を見ないほどの深い亀裂と不信感を生じさせた。G7エヴィアン・サミットのホスト国であるフランスのエマニュエル・マクロン大統領は、AIのリスクに対する警鐘の必要性自体は認めつつも、米国による一國主義的な遮断措置を「厳密に言えば極めてナショナリスト的 (strictly nationalist) な反応である」と公然と批判した¹⁷。

欧州連合 (EU) や日本などの同盟諸国は、国家の重要インフラの防衛や経済の屋台骨となるデジタル化の進展を、米国の巨大テクノロジー企業 (ビッグテック) が提供するAIインフラに大きく依存している。それにもかかわらず、米国の「国家安全保障」という極めて国内政治的な理由によって、「ある日突然、アクセスを遮断されるリスク」が理論上の可能性ではなく現実のものとなったことは、各国のデジタル主権に対する強烈な危機感を呼び覚ました¹²。

フランスのオープンソースAI企業であるミストラルAIを率いるアーサー・メンシュCEOは、サミットの議論の中で「AIのサプライチェーンへの過度な依存」に対する強い懸念を表明した³⁹。「サプライチェーンが密接に絡み合っている場合、相手国 (米国) から突然供給を断たれないという確証がいったいどこにあるのか」とメンシュ氏が発言した通り、米国以外の参加国にとって、この輸出管理指令は、自国のデジタル主権を脅かす最大のチャイナリスクならぬ「アメリカリスク」として認識されるに至った³⁹。

この事態を受け、欧州や日本は、米国に対して単なるAIの「顧客」としてではなく、「信頼できるパートナー (Trusted Partner)」としての地位を要求し、安全保障上の例外措置 (アクセス権の付与とホワイトリスト化) を求めて強硬な外交交渉を突きつける展開となった⁴⁰。同時に、長期的には米国の技術覇権から脱却するための「ソブリンAI (国家主権に裏付けられた自律的なAIインフラ)」の構築に巨額の国費を投じる機運が、かつてないほど高まる結果となったのである⁸。

5. エヴィアン・サミットの核心: ビッグテックと国家元首の直接交渉

このような極度の緊張状態と不信感が渦巻く中で迎えられたのが、6月17日のエヴィアン・サミットにおけるワーキング・ランチであった。午後1時55分から約110分間にわたって行われたこのセッションは、単なる表敬訪問や未来技術に関する和やかな意見交換の場ではなく、世界のデジタル覇権のルール作りと安全保障の新たな枠組みをめぐる、国家と巨大企業の激しい交渉の舞台となった¹¹。

5.1 アルトマン、アモデイ、ハサビスが描く「民主主義陣営の結束」

会議の焦点は、米国政府による無差別な輸出規制の是非と、同盟国間での先端AI技術の共有枠組みの構築に絞られた⁴⁰。米国側のテーブルにはトランプ大統領に加え、マルコ・ルビオ国務長官、スコット・ベッセント財務長官、そして輸出規制の引き金を自ら引いたハワード・ラトニック商務長官が陣取り、強硬な姿勢を崩さなかった⁸。

これに対し、ビッグテックのCEOたちは、企業の垣根を越えて極めて統一されたメッセージを発した。直前に自社の看板モデルを政府によって停止させられ、企業価値を大きく毀損されたアンソロピックのダリオ・アモデイCEOと、グーグル・ディープマインドのデミス・ハサビスCEOは共同で、米国主導に

よるAIガバナンスのための国際的な枠組みの構築を提言した⁸。アモデイ氏は、個別の国家が強力なサイバー能力を持つAIの流出を防ぐためにアクセス制限を課したくなる誘惑に駆られることへの理解を示しつつも、「民主主義陣営がここで分裂してはならない」と首脳陣に向けて直接的な訴えを行った⁴³。

オープンAIのサム・アルトマンCEOもこの見解を強く支持し、高度なサイバー防衛AIツールは、同盟国(友好国)間においては制約なく自由に共有されるべきであると主張した⁴³。アルトマン氏はさらに踏み込んで、技術の評価、テストの標準化、およびリスク管理を担う「米国主導の恒久的な国際機関」の設立を提案し、技術の囲い込みではなく、民主主義陣営の強固な結束を通じた対抗軸の形成を呼びかけた⁸。

テック企業側の論理は冷徹なまでに明快である。AIがサイバー空間の攻撃兵器として機能する以上、日本や欧州といった同盟国が最先端の防衛用AI(ミュトスのようなモデル)を利用できなければ、ロシアや中国、北朝鮮といった権威主義的体制の国家による自律型サイバー攻撃に対して、西側諸国全体の社会基盤が致命的に脆弱化する⁸。したがって、厳格なセキュリティ基準と監査体制を満たす「信頼できるパートナー」の枠組みをG7および友好国間で早急に構築し、彼らに対しては輸出管理の例外的なアクセス権(ホワイトリスト化)を付与することで、強固な共同防衛のインフラを整備すべきだという主張である⁴⁰。

5.2 日本の戦略的計算: サカナAI・伊藤鍊社長の現実主義的アプローチ

このビッグテックの論理に対し、同盟国側の対応にはそれぞれの国情を反映した差異が見られた。日本の立場を代表して出席した高市早苗首相は、AIとデジタル技術が日本の17の成長戦略の一つであり、世界経済の成長エンジンであることを強調した¹¹。その上で、日本が主導してきた「広島AIプロセス」を通じた安全・安心で信頼できるAIエコシステムの構築と、「信頼性のある自由なデータ流通(DFFT)」の原則を改めて提起し、金融、通信、電力などの基幹インフラにおけるサイバーセキュリティ確保に向けた多国間連携を訴えた¹¹。

この日本の外交方針を民間側から強かに裏付けたのが、日本発のAI企業として唯一サミットに招かれたサカナAI(Sakana AI)の伊藤鍊社長の極めて現実主義的な発言である⁴⁵。日本のメガバンクや米半導体大手エヌビディア(NVIDIA)から出資を受け、自然に着想を得た独自のアルゴリズム開発で金融や防衛などの専門領域に特化する同社は、日本の産業界が直面する地政学的なジレンマを最も深く理解する立場にあった。

伊藤氏はトランプ大統領ら首脳陣を前に、「同盟国の安全保障を強かに支えることは、結果的に米国自身の地政学的利益にもかかわる」と直談判し、輸出管理によるアクセス制限の早期見直しを強く訴えかけた⁴⁵。伊藤氏の主張の背景には、テクノロジー開発の冷徹なコスト計算がある。米国企業が開発したミュトスのような最先端のフロンティアモデルを、日本国内で一から完全に独自開発(ソブリンAIの構築)するには、膨大な計算資源(GPU)、世界トップクラスのエンジニア集団、そして天文学的な資金が必要となる⁴⁵。

日本の一新興企業、あるいは国家レベルのプロジェクトであったとしても、短期間で米国の巨大テック企業が築き上げた技術的・資本的優位に追いつくことは非現実的である。したがって、日本政府は感情的な反発から巨費を投じて無謀な独自開発に固執する前に、まずは外交ルートをフル活用して「信頼できるパートナー」としての強固な地位を確立し、米国政府の説得を優先すべきだというのが伊藤氏の提言の真意であった⁴⁵。

これは、日本国内で水面下で始動していた金融庁主導の防衛枠組みの動きとも完全に連動してい

る²⁰。2026年5月14日、金融庁はサイバーセキュリティリスクの急増に対応するため、「官民タスクフォース」を緊急設置していた²⁰。この枠組みには、日本銀行、東京証券取引所、3つのメガバンクなどの重要金融機関に加え、開発元であるアンソロピックの日本法人が参加組織として名を連ねている²⁰。決済システムやコアバンキングシステムという国家の心臓部をAIの脅威から守るため、日本は米国の防衛コンソーシアム構想である「Project Glasswing」をモデルにした独自の防衛体制の構築を模索していた²⁰。日本は米国の圧倒的な技術力に依存せざるを得ない現実を直視しつつ、自国のコアシステムをいかに防衛し、アクセス権を確保するかという、極めて難度の高い綱渡りの外交を迫られていたのである。

6. サミットの成果と採択文書の限界：合意と分断のコントラスト

熱を帯びたワーキング・ランチの議論を経て、G7首脳陣は複数の共同宣言や成果文書を採択して3日間のサミットを閉幕した⁶。しかし、公表された文書の文面には、同盟国間の妥協と、米国のナショナリズムへの配慮、そして多国間協調の限界が色濃く反映されていた。

6.1 AI安全保障に関する先送りと児童保護での妥協

サミットで採択された成果文書の中には、「安全で有益なAI(Safe and beneficial AI)」の推進や、未成年者をオンラインのリスク(AI生成による児童搾取コンテンツ、オンライングルーミング、性的恐喝など)から保護するための宣言が含まれていた⁴⁹。特に、児童保護の分野では、テック企業に対して安全性をモデルの設計段階から組み込む「セーフティ・バイ・デザイン(Safety-by-design)」の原則を求める内容でG7間の明確な合意に至った⁵⁰。

フランスのデジタル担当相がサミット前の閣僚会合で「児童保護は、米国が監視やルール必要性に同意できる唯一の分野だった」と語ったように、この領域は米欧が国内の政治的ハレーションを起こさずに比較的容易に合意できる、数少ない「安全地帯」であった⁵¹。

一方で、サミットの最大の焦点であり、最も急務とされていた「AIのサイバー兵器化防止」や「先端モデルの同盟国間でのアクセス権限(輸出管理の対象外とするホワイトリスト化の合法的枠組みなど)」に関する具体的なルールの策定は、共同声明に明確な形で盛り込まれることはなかった⁴⁶。G7首脳は、各国の財務相や中央銀行総裁に対し、金融分野におけるAIの機会と潜在的リスクに関する「議論の継続」を指示するにとどまり、パブリックなガードレールの構築や、デジタル主権の確立といった根源的な課題は事実上先送りされたのである⁵⁴。

これは、トランプ政権下の米国が、自国の圧倒的な技術覇権を制約されかねない多国間の強制的・法的な枠組みの構築に難色を示したためである。同時に、議長国であるフランスのマクロン大統領も、トランプ大統領の強い反発を招いたり、前年のカナダ・サミットのように途中退席という事態を引き起こしたりすることを防ぐため、あえて議論の決定的な対立点を文書化することを避けた、高度な政治的妥協の結果であると分析される⁵⁴。

6.2 重要鉱物を巡る対中包囲網の形成と地政学的反発

一方で、AI時代を根底で支える物理的な基盤――すなわち「重要鉱物(Critical Minerals)」のサプライチェーン確保においては、G7は極めて明確な対決姿勢を打ち出した⁵⁶。AIの巨大なデータセンターを稼働させるための半導体製造や、クリーンエネルギー技術に不可欠なレアアースなどの供給網において、中国への依存から脱却することを目的とした「重要鉱物生産連合(Minerals Resilience and Production Alliance)」の設立方針が確認されたのである⁵⁴。

会議の中で、日本の高市首相も、中国による過去のレアアースや永久磁石に関する輸出規制が同

盟国のサプライチェーンをいかに脆く分断するかというリスクを強く警告した。そして、最低価格保証（プライスフロア）などの市場介入メカニズムや共同調達の仕組みを通じて、G7および志を同じくするパートナー国における鉱物生産基盤を人為的に強化するよう呼びかけた⁵⁷。共同声明によれば、G7諸国はすでに195の重要鉱物プロジェクトに対して、総額約740億ドル（約640億ユーロ）の投資を発表しており、アルゼンチンにおける西側資本（リオティントなど）のリチウム事業の拡大などが具体的な対抗策として期待されている⁵⁷。

政策分野	G7の合意内容と方針	主要な対立点・懸念事項
AIのサイバー安全保障	財務相・中央銀行総裁レベルでの「継続議論」にとどまる	米国の輸出管理への反発、同盟国のアクセス権確約の欠如
児童保護（オンライン）	セーフティ・バイ・デザインの採用、研究やデータ共有の推進	米国が同意可能な数少ない規制分野として妥協的に合意
重要鉱物のサプライチェーン	「重要鉱物生産連合」の設立、対中依存脱却のための740億ドル投資	中国の猛反発、価格支持メカニズムなどの市場介入手法の是非
環境とAIの電力消費	合意に至らず（事実上の除外）	米国側がデジタル技術の環境負荷議論を「レッドライン」として拒否

このようなG7の動きに対し、対象となった中国政府は直ちに猛反発した。中国外務省は定例会見で「G7という『小グループ（small cliques）』が、市場経済の原則や国際貿易のルールに反してサプライチェーンを政治化し、自陣営に有利に歪めている」と激しく非難し、自国の重要鉱物に対する輸出管理措置は国家安全保障上必要な正当なものであると主張した⁵⁹。さらに、中国の王毅外相は、米国が構築しようとしている閉鎖的な技術同盟に対抗する形で、新興国を巻き込んだ独自の「グローバルなAI協力組織」の設立を提唱し、西側諸国による技術の囲い込みを牽制する構えを見せた⁶⁰。このように、エヴィアン・サミットの成果文書は、表向きは児童保護や鉱物資源の確保といった領域でG7の「結束」を演出したものの、その背後では、AIという次世代の最重要テクノロジーの扱いを巡り、同盟国内の深い不協和音と、覇権国である中国との先鋭化する対立の構図が複雑に絡み合う結果となったのである⁴⁹。

7. 今後の展望：AI冷戦の幕開けと新たな防衛パラダイムの構築

2026年のG7エヴィアン・サミットから導き出される最も重要な教訓と結論は、最先端AIが正式に「戦略物資」および「国家安全保障の核心」として位置づけられたということである⁴⁶。アンソロピックの

「ミュトス」が証明したように、高度な自律的脆弱性探索能力を持つAIは、金融システムや電力網といった国家の社会基盤を一瞬で機能不全に陥れるサイバー攻撃の起爆剤となり得る。そして同時に、その攻撃を未然に防ぐためには、同等かそれ以上に強力なAIを防御側が常時ネットワーク上に配備し、パッチを当て続けなければならないという現実がある¹⁸。

7.1 AI投資の新たなロジック:「サイバー空間の相互確証破壊」

これまで、各国の企業や政府によるAIへの投資は、「人手不足の解消」や「知的労働の生産性向上」、あるいは「新薬開発の加速」といった、平和的かつ経済的リターンに基づくものであった¹⁸。しかし、ミュトスのような兵器級のモデルの登場により、資本市場における投資のロジックは根本から覆された。「AIによる高度なサイバー攻撃は、もはやAIでなければ防げない」という冷徹な事実が突きつけられたのである¹⁸。

これは、冷戦期における核兵器の抑止力構造に似た、サイバー空間における「相互確証破壊(MAD)」のパラダイムを生み出している。国家の軍事予算や重要インフラの防衛予算が、AIモデルの調達と防衛網の構築に半ば強制的に回される「AI軍備拡張競争」の時代が到来した。これにより、一時期はキャズム(普及の壁)や過熱感が危ぶまれたAI投資は、国家安全保障という新たな、そして絶対的な大義名分を得て、今後さらに延命・拡大していくことが確実視される¹⁸。アンソロピックのIPOの行方に象徴されるように、AI企業のバリュエーション(企業価値)は今後、純粋な商業的収益性以上に「国家の安全保障体制に不可欠なインフラとして、いかに深く食い込めるか」という地政学的な変数によって大きく左右されるようになるだろう³⁴。

7.2 「信頼できるパートナー」枠組みの実体化に向けた課題

米国が主導する国家安全保障を大義名分とした輸出管理の厳格化は、必然的に同盟国のデジタル主権との間で激しい摩擦を生み続ける。トランプ政権はサミットにおけるアモデイCEOらとの直接対話を経て、「アンソロピックは(今のところ)国家安全保障上の脅威ではない」と態度を軟化させたとの報道もあるが、一度発動された輸出管理指令という法的な枠組み自体は、容易に撤回されない可能性が高い⁶²。

今後、日本や欧州がとるべき最も現実的な戦略的アプローチは、サカナAIの伊藤氏がサミットで指摘した通りである。すなわち、単独での完全な技術的自立(ソブリンAIの完全な内製化)を目指すという時間的・資金的に不可能な理想論にとられることなく、米国を中心とする「信頼できるパートナー(Trusted Partner)」の枠組みの中に、不可欠な一員として強固な足場を築くことである⁴¹。

そのためには、日本政府や欧州当局が、米国政府や国防総省が要求する極めて厳格なセキュリティ・クリアランスとデータ管理体制(例えば、Project Glasswingのような閉域網での運用ルールや、アクセスログの厳格な監査など)を自国内のインフラに構築し、米国の先端モデルを安全かつ外部流出なく運用できる環境を証明しなければならない²⁰。これにより、例外的なアクセス権(ホワイトリスト入り)を担保する外交交渉を不断に継続することが不可欠となる。

同時に、日本が歴史的に強みを持つ「フィジカルAI(ロボティクス、精密機械、製造業の現場データに基づくAI)」の分野において、世界で独自のポジションを確立することも極めて重要である¹¹。サイバー空間のソフトウェア防衛技術においては米国に依存せざるを得ないとしても、物理空間の制御技術や質の高い学習データにおいて米国との間で「相互依存」の構造を築き上げることができれば、それは中長期的な外交交渉における強力なカードとなる。

2026年のG7エヴィアン・サミットは、AIテクノロジーが「イノベーションの恩恵をもたらす対象」から「国家生存のための戦略的インフラ」へと決定的にフェーズを移行させた歴史的な分水嶺であった。技術

の進化スピードが国家の法整備や統治能力を完全に凌駕しつつある現代において、民主主義諸国は技術覇権を握る米国との間で「信頼の証」を制度化し、共同防衛のサイバーインフラを早急に再構築するという、極めて難度の高い地政学的パズルを解くことを余儀なくされている。テクノロジーと安全保障が不可分に結びついた新たな世界秩序において、国際同盟の真の価値は「サイバー空間における最先端AIの共有と共同防衛の能力」によって再定義されることになるだろう。

引用文献

1. G7エヴィアン・サミット1日目, 6月 20, 2026にアクセス、
<https://jp.diplomatie.gouv.fr/ja/sommet-du-g7-devian-premier-jour>
2. G7 Summit in Evian : Day Three., 6月 20, 2026にアクセス、
<https://in.diplomatie.gouv.fr/en/g7-summit-evian-day-three>
3. As G7 wraps, OpenAI and Anthropic meet with world leaders to discuss the future of AI, 6月 20, 2026にアクセス、
<https://www.fastcompany.com/91561045/g7-wraps-openai-anthropic-meet-world-leaders-discuss-future-ai>
4. 全国ニュース】海峡安全確保で連携協議 ウクライナ和平実現へ一致 - 上毛新聞社, 6月 20, 2026にアクセス、
http://raijin.com/ns/2026061601002102/news_zenkoku.html
5. G7エヴィアン・サミットの成果, 6月 20, 2026にアクセス、
<https://jp.diplomatie.gouv.fr/ja/resultats-du-g7-devian>
6. The outcomes of the Évian G7 Summit., 6月 20, 2026にアクセス、
<https://www.elysee.fr/en/G7evian/2026/06/17/the-outcomes-of-the-evian-g7-summit>
7. G7 Evian Summit – Day 3 –, 6月 20, 2026にアクセス、
<https://japan.kantei.go.jp/105/actions/202606/17g7summit.html>
8. Anthropic, Google DeepMind CEOs call for U.S.-led AI coalition at G7, 6月 20, 2026にアクセス、
<https://qz.com/anthropic-google-deepmind-us-ai-coalition-g7-061826>
9. G7 leaders welcome Trump 'change' on Ukraine, 6月 20, 2026にアクセス、
<https://www.al-monitor.com/originals/2026/06/g7-leaders-welcome-trump-change-ukraine>
10. The Latest: Trump and G7 leaders discuss future of AI on last day of summit - KTVN, 6月 20, 2026にアクセス、
https://www.2news.com/news/national/the-latest-g7-summit-focuses-on-contentious-future-of-ai-and-us-dominance-of-the/article_3290e2c2-ff9f-582f-8690-2da6ef2aea55.html
11. G7 Evian Summit Working Lunch on "Ensuring Safe, Rapid, and ...", 6月 20, 2026にアクセス、
https://www.mofa.go.jp/ecm/epc/pageite_000001_00004.html
12. Anthropic, OpenAI IPO Watch: AI Chiefs Sam Altman, Dario Amodei, Others Reportedly Join Trump At G7 Summit, 6月 20, 2026にアクセス、
<https://stocktwits.com/news-articles/markets/equity/anthropic-open-ai-ipo-watch-ai-chiefs-sam-altman-dario-amodei-others-reportedly-join-trump-at-g7-summit/cZK0sGTR7IL>
13. President Donald Trump sits down with Sam Altman, Dario Amodei and other AI CEOs at G7: 'We have to be very careful with ...', 6月 20, 2026にアクセス、

- <https://timesofindia.indiatimes.com/technology/tech-news/president-donald-trump-sits-down-with-sam-altman-dario-amodei-and-other-ai-ceos-at-g7-we-have-to-be-very-careful-with-/articleshow/131812042.cms>
14. US asks Anthropic to block global access to top AI models: Why it matters, 6月 20, 2026にアクセス、
<https://www.aljazeera.com/news/2026/6/14/us-asks-anthropic-to-block-global-access-to-top-ai-models-why-it-matters>
 15. Start of AI cold war? Why US cut off global access to Anthropic's frontier models, 6月 20, 2026にアクセス、
<https://timesofindia.indiatimes.com/defence/international/start-of-ai-cold-war-why-us-cut-off-global-access-to-anthropics-frontier-models/articleshow/131707821.cms>
 16. Anthropic suspends top AI models after U.S. export control order - Nextgov/FCW, 6月 20, 2026にアクセス、
<https://www.nextgov.com/artificial-intelligence/2026/06/anthropic-suspends-top-ai-models-after-us-export-control-order/414173/>
 17. US export ban on Anthropic's AI models further strains alliances, 6月 20, 2026にアクセス、
<https://www.aljazeera.com/news/2026/6/19/us-export-ban-on-anthropics-ai-models-further-strains-alliances>
 18. AI投資を延命させる“期限なき恐怖”、最先端AI「ミュトス」が開く ..., 6月 20, 2026にアクセス、
<https://diamond.jp/articles/-/392599>
 19. Claude Mythos(クロード・ミュトス)とは？性能やベンチマーク性能 - JAPAN AI, 6月 20, 2026にアクセス、
<https://japan-ai.co.jp/media/7147/>
 20. アンソロピックが日本のサイバー防衛枠組みに参画へ 危険すぎるAI ..., 6月 20, 2026にアクセス、
<https://note.com/hirokimiyano/n/ne9769cc99830>
 21. Anthropicが昨日 Claude Fable 5をリリースした。サイバー向けの分類器付きの Mythosの公開版, 6月 20, 2026にアクセス、
https://www.reddit.com/r/cybersecurity/comments/1u22yb0/anthropic_released_claude_fable_5_yesterday/?tl=ja
 22. Mozilla: アンソロピックの「神話(Mythos)」はFirefox 150で271件のセキュリティ脆弱性を見つけた : r/cybersecurity - Reddit, 6月 20, 2026にアクセス、
https://www.reddit.com/r/cybersecurity/comments/1ssp6ov/mozilla_anthropics_mythos_found_271_security/?tl=ja
 23. Anthropic preps IPO: 5 notes - Becker's Hospital Review, 6月 20, 2026にアクセス、
<https://www.beckershospitalreview.com/healthcare-information-technology/ai/anthropic-preps-ipo-5-notes/>
 24. Anthropic Claude Fable 5 on AWS: 保護手段が組み込まれた Mythos クラスの機能が利用可能に, 6月 20, 2026にアクセス、
<https://aws.amazon.com/jp/blogs/news/anthropic-claude-fable-5-on-aws-mythos-class-capabilities-with-built-in-safeguards-now-available/>
 25. How Anthropic lost the White House's trust — and then its flagship product, 6月 20, 2026にアクセス、
<https://www.washingtonpost.com/technology/2026/06/15/how-anthropic-lost-white-houses-trust-then-its-flagship-product/>

26. The Department of Commerce Restricted Access to Anthropic's Latest Models. What Comes Next?, 6月 20, 2026にアクセス、
<https://www.csis.org/analysis/departement-commerce-restricted-access-anthropi-cs-latest-models-what-comes-next>
27. US Govt's export controls on Anthropic tied to safety fix, says US President Advisory council member David Sacks, 6月 20, 2026にアクセス、
<https://www.aninews.in/news/business/us-govts-export-controls-on-anthropic-tied-to-safety-fix-says-us-president-advisory-council-member-david-sacks20260614123043>
28. Fable 5 Dispute Hardens: Sacks Says Anthropic Refused the Fix. Anthropic Disputes the Threat. - Tech Jacks Solutions, 6月 20, 2026にアクセス、
<https://techjacksolutions.com/ai-brief/fable-5-dispute-hardens-sacks-says-anthropic-refused-the-fix/>
29. Anthropic had 90 minutes to restrict Claude Fable 5 as White House feared Chinese access, 6月 20, 2026にアクセス、
<https://www.businesstoday.in/technology/artificial-intelligence/story/anthropic-had-90-minutes-to-restrict-claude-fable-5-as-white-house-feared-chinese-access-537095-2026-06-16>
30. David Sacks on Anthropic export control - Hacker News, 6月 20, 2026にアクセス、
<https://news.ycombinator.com/item?id=48529358>
31. Report: Anthropic Meeting With US About Export Control Directive on AI Models, 6月 20, 2026にアクセス、
https://exportcompliance.com/article/2026/06/16/report-anthropic-meeting-with-us-about-export-control-directive-on-ai-models-2606150014?BC=bc_6a30b9e6c3b0e
32. US government warned Anthropic that Fable 5 had been jailbroken, but firm 'refused' to fix before US implemented export controls — Anthropic defended its decision by saying the jailbreak 'isn't serious,' Chinese group had reportedly accessed model | Tom's Hardware, 6月 20, 2026にアクセス、
<https://www.tomshardware.com/tech-industry/artificial-intelligence/trump-advise-r-david-sacks-says-anthropic-refused-to-fix-fable-5-jailbreak-before-us-export-controls>
33. Anthropic vs. the Trump Administration: What the Latest Fable 5 and Mythos 5 Ban Means for AI Investors, 6月 20, 2026にアクセス、
<https://marketwise.com/investing/trump-administration-anthropic-claude-ai-ban-investors/>
34. Anthropic IPO Watch: Valuation, Date & What Investors Must Know - INDmoney, 6月 20, 2026にアクセス、
<https://www.indmoney.com/blog/us-stocks/anthropic-ipo-date-valuation-filing>
35. Fable 5 Suspension Facts and Timeline - EisnerAmper, 6月 20, 2026にアクセス、
<https://www.eisneramper.com/insights/artificial-intelligence-insights/fable-5-suspension-facts-and-timeline-0626/>
36. Anthropic's IPO has a problem that 'just won't go way', and it is that the US government is becoming, 6月 20, 2026にアクセス、
<https://timesofindia.indiatimes.com/technology/tech-news/anthropics-ipo-has-a->

- [problem-that-just-wont-go-way-and-it-is-that-the-us-government-is-becoming-/articleshow/131800819.cms](https://www.ft.com/content/573925dd-6d41-4185-810d-2b848195903d?syn-25a6b1a6=1)
37. Is this the beginning of the end for AI stock? US government force Anthropic to stop foreign access to Fable 5 and Mytho - Reddit, 6月 20, 2026にアクセス、
https://www.reddit.com/r/ValueInvesting/comments/1u4f3qy/is_this_the_beginning_of_the_end_for_ai_stock_us/
 38. The Mythos Recall and the Global AI Sovereignty Debate, 6月 20, 2026にアクセス、
<https://www.techpolicy.press/newsletter-6-14-2026/>
 39. Anthropic chief tells G7 leaders to 'resist the temptation to splinter' over AI, 6月 20, 2026にアクセス、
<https://www.ft.com/content/573925dd-6d41-4185-810d-2b848195903d?syn-25a6b1a6=1>
 40. G7、最先端AI利用権巡り議論「信頼できる」国や企業を対象, 6月 20, 2026にアクセス、
<https://www.47news.jp/14485421.html>
 41. US and Europe discuss access to AI models after Anthropic dispute, 6月 20, 2026にアクセス、
<https://www.ft.com/content/5962a34a-9b0a-4aac-bea7-60419f2c28c9?syn-25a6b1a6=1>
 42. Demis Hassabis and Dario Amodei called for a U.S.-led AI coalition at a closed-door meeting at the G7 summit : r/singularity - Reddit, 6月 20, 2026にアクセス、
https://www.reddit.com/r/singularity/comments/1u8hna/demis_hassabis_and_dario_amodei_called_for_a/
 43. As Anthropic CEO tells the world from G7 stage that democratic nations should come together to safeguard AI, here's the 'big truth' he seemingly forgot, 6月 20, 2026にアクセス、
<https://timesofindia.indiatimes.com/technology/tech-news/as-anthropic-ceo-tells-the-world-from-g7-stage-that-democratic-nations-should-come-together-to-safeguard-ai-heres-the-big-truth-he-seemingly-forgot/articleshow/131824504.cms>
 44. G7エビアン・サミットワーキング・ランチ「AIの安全で迅速かつ効率的な導入の確保」, 6月 20, 2026にアクセス、
https://www.mofa.go.jp/mofaj/ecm/epc/pageit_000001_00005.html
 45. 先端AI利用へ米政府の説得を G7出席のサカナAI社長, 6月 20, 2026にアクセス、
<https://www.47news.jp/14494994.html>
 46. G7サミット、先端AIで「囲い込みより連携」首脳とテックCEOが安全保障議論 - BigGo ファイナンス, 6月 20, 2026にアクセス、
<https://finance.biggo.jp/news/c90c2fa1-81bc-40e6-b64a-038b01466d9e>
 47. G7昼食会で米国に直談判、サカナAI伊藤社長「最先端AIの提供再開を」 - BigGo ファイナンス, 6月 20, 2026にアクセス、
<https://finance.biggo.jp/news/ac87794b-46f5-4951-8b31-d9960d69ba34>
 48. Prime Minister TAKAICHI's Visit to the United Kingdom and Italy and Her Attendance at the G7 Evian Summit (June 13-18, 2026) | Ministry of Foreign Affairs of Japan, 6月 20, 2026にアクセス、
https://www.mofa.go.jp/ecm/epc/pageite_000001_00010.html

49. G7 Summit in Media 2026: Evian Coverage Analysis & Data - Onclusive, 6月 20, 2026にアクセス、<https://onclusive.com/resources/blog/g7-summit-in-media/>
50. Non-negotiable" commitment: G7 and global partners launch roadmap to secure digital space for minors - ANI News, 6月 20, 2026にアクセス、<https://www.aninews.in/news/world/europe/non-negotiable-commitment-g7-and-global-partners-launch-roadmap-to-secure-digital-space-for-minors20260617195236>
51. Online child protection likely to find favour at digital G7 - The Star, 6月 20, 2026にアクセス、<https://www.thestar.com.my/tech/tech-news/2026/05/29/online-child-protection-likely-to-find-favour-at-digital-g7>
52. Campaigners urge G7 chiefs to protect children from AI risks - Digital Journal, 6月 20, 2026にアクセス、<https://www.digitaljournal.com/article/campaigners-urge-g7-chiefs-to-protect-children-from-ai-risks/>
53. Digital G7 reaches limited deal on child protection, AI energy impact - Vancouver Island, 6月 20, 2026にアクセス、<https://vancouverisland.ctvnews.ca/world/article/digital-g7-reaches-limited-deal-on-child-protection-ai-energy-impact/>
54. Macron's Evian summit shows the limits Trump places on the G7, 6月 20, 2026にアクセス、<https://www.chathamhouse.org/2026/06/macrons-evian-summit-shows-limits-trump-places-g7>
55. Emmanuel Macron and Donald Trump test their bruised bromance at G7 summit, 6月 20, 2026にアクセス、<https://www.ft.com/content/cd9e31af-9521-4a77-8d89-882bb1e4a23e?syn-25a6b1a6=1>
56. Warning against 'consumer club' as G7 forms critical minerals alliance - Climate Home News, 6月 20, 2026にアクセス、<https://www.climatechangenews.com/2026/06/18/warning-against-consumer-club-as-g7-forms-critical-minerals-alliance/>
57. G7 Acts on Critical Minerals as China Tightens Grip, 6月 20, 2026にアクセス、<https://miningdigital.com/news/g7-acts-on-critical-minerals-as-china-tightens-grip>
58. Japan seeks G7 price floors to break China's rare earth grip, 6月 20, 2026にアクセス、<https://asiatimes.com/2026/06/japan-seeks-g7-price-floors-to-break-chinas-rare-earth-grip/>
59. China defends critical minerals export controls after G7 statement, 6月 20, 2026にアクセス、<https://www.kitco.com/news/off-the-wire/2026-06-18/china-defends-critical-minerals-export-controls-after-g7-statement>
60. China pitches free AI for the developing world as the G7 debates who gets access to American models - TNW, 6月 20, 2026にアクセス、<https://thenextweb.com/news/china-ai-global-cooperation-vs-g7-export-control>

S

61. 米国政府による禁止措置を受け、Claude Fable 5およびMythos 5が「突然利用できなくなった」、6月 20, 2026にアクセス、
<https://www.malwarebytes.com/ja/blog/ai/2026/06/claude-fable-5-and-mythos-5-abruptly-disabled-after-us-gov-deems-them-too-clever>
62. Trump says he no longer views Anthropic as a national security threat after G7 meeting with CEO - TNW, 6月 20, 2026にアクセス、
<https://thenextweb.com/news/trump-anthropic-not-national-security-threat-axios-interview>
63. Trump Tells Axios Anthropic Is No Longer a National Security Threat — Reversal Comes Two Days After G7 Lunch With Amodei, Export Ban Still Active | AI Weekly, 6月 20, 2026にアクセス、
<https://aiweekly.co/node/3248>